



### 団塊世代に防音・防振ビジネス 自宅で音楽、低減材・専用室・賃貸住宅



楽器メーカーや住宅メーカーの間で、楽器の演奏時に発生する音や振動を軽減する部材をはじめとした、“防音・防振”ビジネスが活発化している。定年退職などを機に、若い頃趣味にしていた音楽活動に再び取り組む動きが増えており、団塊世代を中心に関連市場が拡大するとみられている。

ローランドは、床の上に敷く電子ドラム用の防振ボードを商品化。防振・防音建材を手がける大建工業と連携を進めながらの販売活動に乗り出した。新製品「ノイズ・イーター・ベース『NE-100B』」は、グラスウールと木質ボード、カーペットを組み合わせたもので、電子ドラムと床の間に敷いて使用。ペダルを踏み込んだ際に発生する振動を半分以下に低減する役割を果たす。

販売面では大建工業のショールームにローランドのデジタルドラムを設置。試打を通じドラムの良さをアピール、最寄りのローランド店を紹介しドラムと部材の売り上げ増につなげる。

大和ハウス工業は本格的な防音室を併設した戸建て住宅「奏でる家」を展開している。

今年に入って、東京・新宿の展示場にモデルハウスを設置したところ、仙台や名古屋から新宿のモデルハウスまで足を運んだ上で購入する客も多く、売り上げ増に寄与しているという。

「自宅で楽器演奏を満喫できる賃貸住宅」をコンセプトとした「音楽マンション」を展開しているのが越野建設（東京都北区）。

団塊世代の間では音楽演奏だけでなく「防音室を設置してホームシアターを楽しもうという層も、じわじわと増えている」（大建工業の井上直人・エコ音響製品部サウンドセンター長）という。動画サイトに楽器演奏を投稿する利用者の需要も増えており、防音・防振ビジネスは今後活発化するとみられる。

情報提供: Sankei Biz

### 部屋の空気質を向上させるハイブリッド換気システム「AIR MEISTER(エアマイスター)」新発売



LIXILは、「Let's change the air」をコンセプトに、熱交換換気システムに空気清浄機能を搭載したハイブリッド換気システム「エアマイスター」を、2015年9月1日より全国で発売開始します。

業界トップクラスとなる87%の熱回収率により、換気による熱の流出入を最小限に抑えながら、ペット臭・介護臭、生ゴミ臭などの生活臭だけでなく、空気清浄機では除去できないCO<sub>2</sub>や一酸化炭素なども効率的に排出します。

また、外気を室内に取り込む際は、2層構造のフィルターで花粉はもちろん、1.0~2.5μmの微小粒子を95%捕集します。さらに屋内給気口にはプラスマクラスターも搭載しています。床スペースを取らない壁掛け式で、W739×H313×D210とコンパクトな形状としており、屋外に面した壁に縦横自在に設置可能です。

そのほか、業界初の機能として、お手入れの手間を省くプレフィルターの「自動クリーニング機構（特許出願中）」や、外気温・室温をモニターして自動で最適な省エネ運転を行う「自動省エネ運転機能」、照度センサーによる「自動静音運転」など、使用者に配慮した様々な機能も搭載しています。

情報提供: LIXIL

### 国交省、2016年度予算概算要求を公表 少子高齢化・人口減少対応を重点化

国土交通省は8月27日、2016年度予算の概算要求をまとめた。住宅局は少子高齢化・人口減少に対応した住まい・まちづくりを1番目の重点テーマに挙げ、空き家対策の取り組みの支援や公的賃貸住宅団地の再生を中心とした「スマートウェルネス住宅・シティ」の実現などに力を入れていく。

民間事業者と連携した空き家の活用などを支援する「空き家対策総合支援事業」として要国費で20億円を要望したほか、モデル的な空き家対策を支援する先駆的空き家対策モデル事業にも国費1.5億円を要望した。また、スマートウェルネス住宅等推進事業の要望額は2015年度比1.09倍の国費348億円。

住宅ストックの活用促進に向けては、長期優良住宅化リフォーム推進事業として2015年度比3.22倍の国費61.2億円を盛り込んだ。大幅な拡充だ。

地域型住宅グリーン化事業は、2015年度比1.09倍の120億円を要望。補助対象の住宅として、建築物省エネ法に規定される性能向上計画認定住宅や、土壁などを使った気候風土に適応した一定の省エネ性能を満たす住宅まで範囲を拡充することを求めた。

情報提供: 新建ハウジング